



横浜国立大学教育学部 学校教員養成課程 パンフレット

横浜国立大学 教育学部 入試部会・広報担当
〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2
TEL 045-339-3261 (学務係)
FAX 045-339-3264
<https://www.edu.ynu.ac.jp/>

デザイン・制作：株式会社マイトベーシックサービス
2022年度作成

パンフレット掲載写真の一部については、
個人情報保護のため、差替えまたは見えな
いようにカバーしています。

横浜国立大学 教育学部

YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY
College of Education

学校教員養成課程



大学生になる
ここで教師になる



未来を切り拓いていく
教育のプロフェッショナルを目指して

変化の激しい現代の社会の中で、学校は、様々な課題に直面しています。
でも、いろいろな個性をもった子供たちがいるからこそ“先生”は楽しい。
“生きる力”をもった未来の子供たちを誇りを持って育てていきませんか？
学校教員養成課程では、現代社会の中の教育を考え、様々な問題を解決し得る総合的資質を持った教員を養成します。

学部長挨拶
これからの教育のために

横浜市は豊かな自然に恵まれた大都市です。そのほぼ中央に位置する横浜国立大学は、緑あふれるキャンパスの中に充実した学習環境を備え、県内・国内はもとより、海外にも研究の場を広げ活躍する優れたスタッフが揃っています。本学の目指す4つの実践的「知」、すなわち「知識・教養」「思考力」「コミュニケーション力」「人間力」を身に付けた人材の育成のための多彩な教育カリキュラムが準備され、留学生を含む多様な学生たちが伸びやかに学んでいます。

中でも本学教育学部は、教員になりたい人のための学びの場です。神奈川県内唯一の国立大学教員養成系学部として、様々な新しい試みに取り組みながら、実践的・先進的な資質・能力を身に付けた教員を養成しています。教育学部は、本学の中で最も歴史の長い学部で、明治9年開学の横浜師範学校に始まり、その後継組織として、昭和24年には横浜国立大学学芸学部が誕生しました。その後も昭和41年に教育学部、平成9年には教育人間科学部と、社会のニーズにあわせて成長を続け、平成29年度には本学一体の教育組織の改編によって、教員養成を目的とする1課程の学部である教育学部と

して再スタートしました。つまり、現在の本学教育学部は教員養成に特化した学びの場となっているのです。

ご存じのとおり、現在、教育の現場は多くの困難に直面しています。その要因は必ずしも教育の現場だけで解決できるものではなく、時間をかけて社会全体で取り組んでいかなければならない問題も少なくないでしょう。社会全体で問題解決に向けて取り組んでいく中で、成長していく子供たちの側に立ち、寄り添い、支えていくことができるのが教師という仕事です。神奈川県内には現在100万人を超える子供たちが住んでいます。その数は、しばらくの間、ほとんど減少しないと予想されており、神奈川県内の教育現場はともに未来を切り開いていくための優秀な人材を常に求めています。実際、県内の小学校・中学校・高等学校では、毎年合計2000人以上の教員を募集しており、卒業生たちが次々と現場へと羽ばたき、様々な形で活躍をしています。

本学教育学部では、社会のニーズと要請に応え、県内各教育委員会と連携した教員養成及び教員研修等を通して、地域とつながる実践的で先進的なカリキュラムを用意しています。そして、地域にも世界にも繋がることのできるグローバルな視点から、教育の未来を切り拓くことのできる人材を輩出することを目指します。そのために私たちは多様な入学試験を用意し、様々な人材がともに学ぶことができる教育学部を築き上げてきました。

本学教育学部は、教師となって、子供たちとともに教育の未来を切り拓いていきたい皆さんを歓迎します。皆さんと一緒に学べる日を心から楽しみにしています。



教育学部長
木村 昌彦

柔道、スポーツ科学、中学校武道必修化等を中心に研究活動を展開。2016年リオデジャネイロオリンピック柔道選手団チームリーダーを務め、神奈川県体育学会会長、横浜市教育委員会教育委員等も歴任している。

令和3年度に「学校教員養成課程」へ

教育学部は、神奈川県内唯一の国立大学教員養成系学部であり、地域の教員養成の中核的存在として従来以上に重要な役割を果たしていくため、課程名称を「学校教員養成課程」に変更しました。1年次から4年次までの小学校、中学校、特別支援学校等における様々な実習や現場体験を通して、教育に関わる諸課題を総合的かつ

教育学部が
求める学生像

- 教員として、子供とコミュニケーションをとりながら共に学び続けたい人
- 学校教育の充実、創造に貢献したい人
- 特別支援教育の充実、創造に貢献したい人
- 現代的な教育課題に対して、他者と協働的に広い視野に立った解決策を構想し実践したい人

学校教員養成課程とは？

横浜という立地条件により、様々なタイプ・能力・興味を持った学生が集まります。その多様性を活かしつつ、教育に携わりたい、教育を専門的に学びたいという学生一人ひとりのニーズに応え、探究心を引き出し、個性的ですぐれた教師、教育者を育成するよう心がけています。本学部では学生たちが学校現場での実践と大学での学問・研究を自身の目的に合わせてうまく組み合わせ、体系的に授業プログラムを組み立て、計画的に学ぶことのできる環境を整えています。それによりどのような場面においても教育者の役割を果たせる能力を身に付けていくことができます。

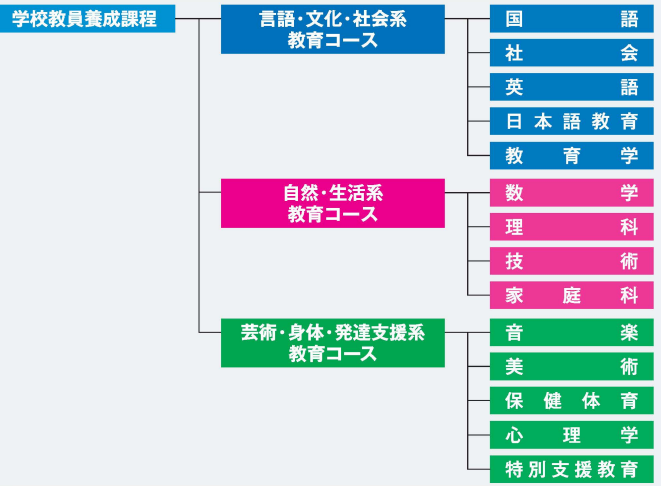
課程は3つのコースと14の専門領域から編成されています(右図)。すべてのコースにおいて学生は小学校教諭一種免許状の取得を義務づけられています。さらに、教科の専門領域では中学校教諭一種免許状を取得、特別支援教育専門領域では特別支援学校教諭一種免許状を取得することになります。入学後、様々な領域の内容に触れながら専門とする領域を選択し、選択後は専門領域に分かれて少人数の環境で学び、高度な専門性を身に付けることができます。(P4～5参照)

また、社会の要請に応え、二種免許を取得しやすいカリキュラムに

多角的な見地から理解するとともに、実践的・先進的な資質能力を身に付けた教員を養成し、すべての学生たちを教員として世に送り出すことを目標としています。
教育学部は、以下のような資質や能力を有する人を求めています。

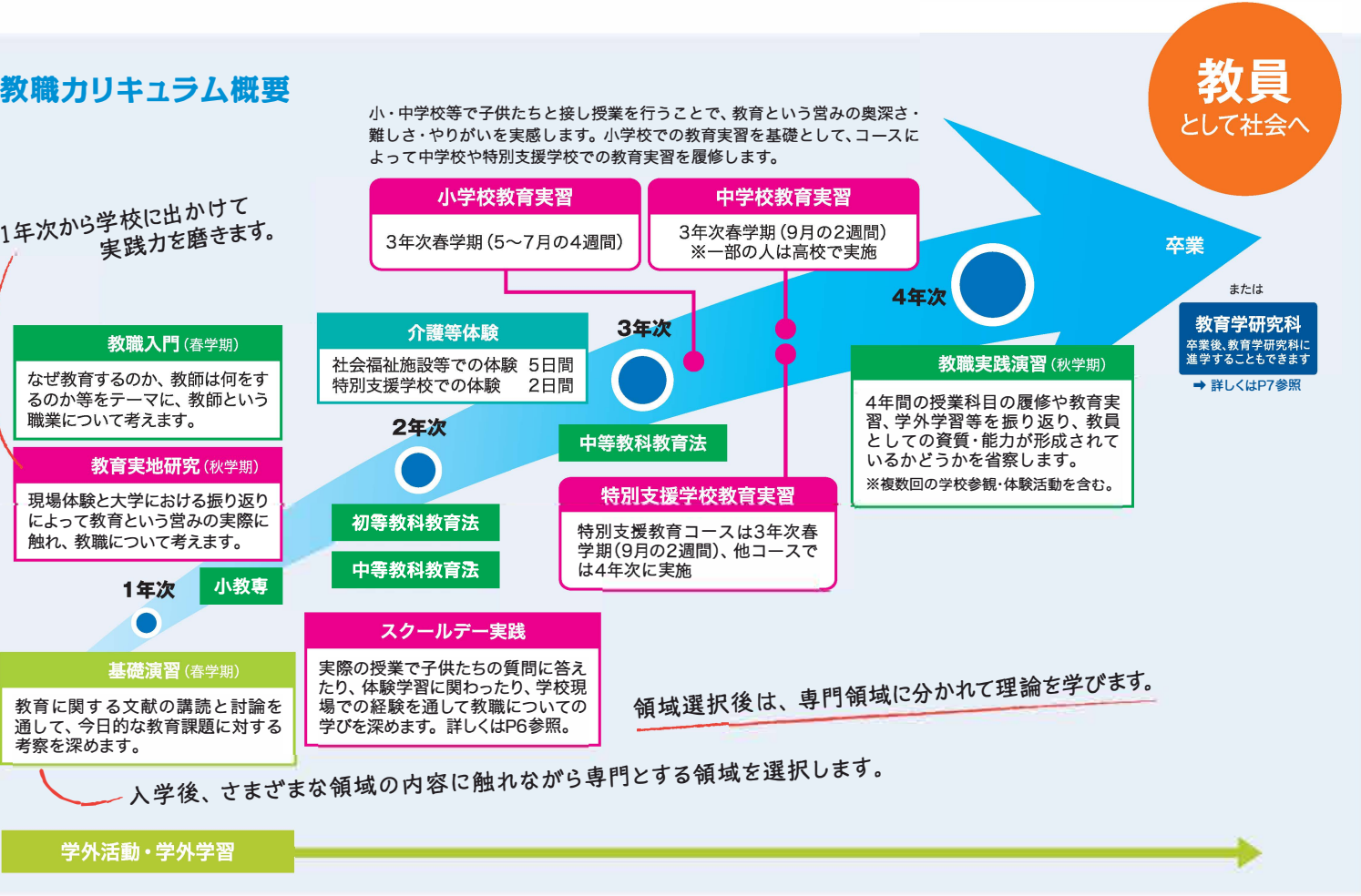
再編しました。中学校教諭免許状や特別支援学校教諭免許状を持つ小学校教諭、複数教科の中学校教諭免許状や特別支援学校教諭免許状を持つ中学校教諭も養成します。

教育学部 学校教員養成課程の編成



学校教員養成課程での4年間の歩み

1年次から小・中学校等に出かけ、子供と接したり、授業を参観したりします。この体験により、教師の仕事、子供の考え等について、多くの疑問が生まれてきます。この疑問こそが大学の授業を意味のあるものにしてくれます。そして、大学の授業を通して各自の疑問と向き合うことで、次の学校訪問では、子供の見方がより豊かなもの変わっていきます。3年次の教育実習では、子供をみる目が養われた状態で取り組むことができます。



大学での授業

学生の声

- 講義で自分なりの考えや作品を創り、たくさんの先生や仲間と直接話すことで、将来教師になるイメージが強くなりました。
- 個性的で多彩な授業に、いつもワクワクしています!
- 観察・実験を通して、新しい科学の見方が得られました。

大学での授業については、
オンライン・オープンキャンパスのオンデマンド配信
「専門領域紹介」、「教員の授業紹介」等をご参照ください。

学校教員になろうとする強い意志をもつ高校生・受験生を対象に
『公開講座』も開設しています。

ご興味のある講座がありましたら、是非ご参加ください。
詳細は、本学部Webサイトをご覧ください。
https://www.edu.ynu.ac.jp/exam/open_lecture/

どんな免許状を取得できるの？

学生の所属する専門領域は、入学時に専門領域の決まっている学生を除き、1年次の10月頃までに本人の希望及び入学後の学修状況を基に決定します(受入上限数を超えた場合は選考試験あり)。決定後はより高度な専門性を身に付けるために各専門領域に分かれて学習します。各専門領域では、下表に示す教育職員免許状を取得することができます。

コース	専門領域	資格・免許状
言語・文化・社会系教育コース	国語／社会／英語	小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状(高等学校教諭一種免許状)
	日本語教育／教育学	小学校教諭一種免許状
自然・生活系教育コース	数学／理科／技術／家庭科	小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状(高等学校教諭一種免許状)
	音楽／美術／保健体育	小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状(高等学校教諭一種免許状)
芸術・身体・発達支援系教育コース	心理学	小学校教諭一種免許状
	特別支援教育	小学校教諭一種免許状 特別支援学校教諭一種免許状

全員が小学校教諭一種免許状を取得することを基本とします。さらに教科の専門領域では中学校教諭一種免許状、特別支援教育専門領域では特別支援学校教諭一種免許状の取得が必須です。高等学校教諭一種免許状も希望によって取得することができます。また、本人の希望により、専門領域の枠を超えて、中学校教諭免許状、特別支援学校教諭免許状の取得も目指すことができます。

目指す教員像

次の3つの目標をもった教員を目指します。

◎教育力と教科の専門性を身に付けよう

小学校での基本的な教育力を身に付けた小学校教員の養成を中心に、教育学・心理学、特別支援教育、中・高等学校の各教科等、領域ごとにより高度な専門性をも兼ね備えた教員を養成します。

◎目の前の問題に立ち向かおう

多様な今日的課題(特別支援教育／インクルーシブ教育／ICT教育／異文化理解教育／外国につながる子供の学習支援等)と大学の学習を関連付け、問題解決にトライする教員を養成します。

◎児童・生徒の未来を育もう

学習の本来のねらいである児童・生徒の生活の質の向上を実現するための学習デザインを構想できる、実践力に優れた教員を養成します。

教育実習

学生の声

嬉しかったのは「先生のおかげでできるようになった! もっとやりたい! 」と言われた一言です。「やりたいけど分からない、できない」ことを「できる、もっとやりたい」にするのが教育だなあと感じました。

教育実習の様子につきましては、
Webサイト上での公開は控えさせていただきます。

本学部の教育実習は、小学校での実習を基礎として、
コースによって、中学校や特別支援学校での実習を履修します。
高等学校での教育実習を履修する場合もあります。

学外での体験で教師力を身に付けます

「学外活動・学外学習」は、大学で学んだ知識を社会の現場で積極的に実践していく活動であり、それを大学の単位として認定しようという制度です。社会のニーズに対応したボランティア活動を通して、将来の進路を見極めることができるだけでなく、学内での学習や研究を見直し、社会的・教育的な実践力を養うのに最適な場となっています。活動領域は次の3つです。

名称	活動内容
学外活動・学外学習Ⅰ 社会全般のボランティア活動	保土ケ谷区役所インターンシップ・国際機関実務体験プログラムへの参加等
学外活動・学外学習Ⅱ 小・中・高校等での教育ボランティア	授業や課外活動等で、児童・生徒たちの学習活動を支援する
学外活動・学外学習Ⅲ 子供たちへの講座や交流活動	わくわくサタデー／がやっこ探検隊



学生の声

様々な企画を通して子供たちに新しいことへ挑戦する楽しさや、何かができるようになることの嬉しさ、そして、何より違う学年・小学校の友達と活動する楽しさを知ってもらおうと、日々企画作りをしています！学生同士の交流も深まり、一生の思い出づくりができますよ！

スクールデー実践

2年次には春学期または秋学期に週に1回、アシスタント・ティーチャーやフィールドワーク研究、教材研究から選り活動するスクールデーがあります。実際の授業で子供たちの質問に答えたり、体験学習を手伝ったりする活動、元校長先生からアドバイスを受けながら学校現場でフィールドワークをする活動、子供の反応を想像しつつ、教材・教具等を作る活動が準備されています。授業見学を通して生じた疑問や興味が出てきた分野について、さらに深い内容を学校現場で学ぶことができるのです。



教室を出ていろいろな活動もします

在校生／卒業生からのメッセージ

高校生のときに参加したオープンキャンパスで、開放的な学内の様子や、先生方と学生さんのあたたかい雰囲気の魅力を感じ、ここで学びたいと思うようになりました。

特に印象に残っているのは、2年次のスクールデー実践です。私はアシスタント・ティーチャーを選び、学校ボランティアとして活動しました。実際に子どもたちと関わる経験は本当に学びが多く、「教員になりたい」という夢は持ちながらもボランティア等の経験がなかった私にとって、大きな意味のあるものになりました。授業が終わった今でも、学校ボランティアは継続しています。このような実践の機会が充実していることは、横国の魅力の1つだと感じています。今は理科専攻として、講義や実験を通して理科の奥深さに触れて専門性を高めながら、子どもたちとの交流も深め、素敵な先生方や同じ志をもつ仲間から日々良い刺激を受けつつ、充実した大学生活を送っています。最高の環境で学べることに感謝しています。



池山愛さん
学校教員養成課程

私が横浜国立大学の教育学部に通うことを決めた一番の理由は、実践の多さです。実際の教育現場で、児童生徒と関わったり、先生方の姿を自分の目で観察したりするからこそ学べることはたくさんあると思います。実際の学校に行く機会が多くあることで、これらのことを大学生の時から行うことができることにとても魅力を感じました。この経験は、教員になった時に大きな強みになると思います。

私は横浜国立大学に来て、たくさんの大切な同級生や尊敬できる先輩、専門性がとても高い先生に出会うことができました。教員になりたいという同じ志を持った仲間とともに学習することができることは、とても有意義のためになるものばかりです。このつながりは一生大切にしたいと思っています。

四年間の大学生活を通して、自身の教師力を最大限に高めていくことができるように、これからも様々なことを学び続けていきたいです。



森悠真さん
学校教員養成課程

入学試験情報

学校教員養成課程では、時代の変化に合わせた特色ある入試を行っています。

入試種別		募集人員	試験内容
特別選抜	総合型選抜	25	小論文＋個人面接（プレゼンテーション含む）＋大学入学共通テスト
	学校推薦型選抜	地域枠	小論文＋個人面接
		全国枠	小論文＋個人面接（音楽専門領域のみ実技試験あり）
	帰国生徒選抜	若干名	小論文＋個人面接
一般選抜（前期日程）		100	大学入学共通テスト＋集団面接＋小論文（教育課題論文）or 実技（音楽／美術／体育）

各入試の日程等詳細については、大学及び学部の入試関連のウェブサイトにも掲載されています。
大学の入試関連ウェブサイト：<https://www.ynu.ac.jp/exam/> 学部の入試関連ウェブサイト：<https://www.edu.ynu.ac.jp/exam/>
各入試の内容は学生募集要項で必ず確認してください。特別選抜の学生募集要項は冊子が発行されず資料請求できませんのでご注意ください。
以下の本学ウェブサイトに掲載されますのでダウンロードの上ご参照ください。
<https://www.ynu.ac.jp/exam/faculty/essential/>（YNUホーム▶入試情報▶学部入試－資料ダウンロード（学生募集要項等））



学部の入試関連
ウェブサイトへ

卒業後さらに実践や理論を磨きたいあなたへ

学部卒業後、さらに教育実践に関して研究を進めたいあなたには、教育学研究科が用意されています。

最新情報は教育学研究科ウェブサイトをご確認ください。

教育支援専攻	高度教職実践専攻（教職大学院）
心理学または日本語教育の専門的知識や理論、方法を学び、地域における心理的支援を行う力、国内外の教育機関における高度な実践力を身に付けるためのプログラムを用意しています。心理支援コースでは、公認心理師や学校心理士等の諸資格取得に必要な科目に対応したカリキュラムを提供し、講義・演習・実習を通して心理的支援をする上で必要な知識・技能の習得を目指します。また、調査研究や実践研究、実験研究等を行い、その成果発表や修士論文の執筆を通して、自身の専門性を高めていきます。日本語教育コースでは、日本語教育の専門的知識を獲得し、研究能力を身に付けることで自身が見つけた課題を追究します。国際都市・横浜の地域性を活用し、国内外の教育機関に貢献する日本語教育の専門家を目指します。	教育現場で即戦力として活躍できる高度な教育実践力・問題解決能力を身に付けることを目的とした専門職大学院です。本学教職大学院では、学部新卒学生向けに確かな学力の育成とそれを保障する授業改善や多様なニーズに適切に対応できる教員の養成を行う教科教育・特別支援教育プログラムを用意しています。定常的な学校実習を通じて、理論と実践の往還・融合に基づく学校課題の解決に取り組み、総合的な教師力の向上と新たな教育理論や実践の開発を目指します。また、学内からの進学希望者には、飛び入学や学部長推薦による学内特別選抜等、進学しやすい制度を設けています。 ◎取得可能な主な資格 ・教職修士（専門職） ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭、養護教諭、栄養教諭、特別支援学校教諭の専修免許状

その後の進学先として、東京学芸大学、埼玉大学、千葉大学、横浜国立大学で構成される連合大学院で、博士課程後期3年のみの課程からなる独立研究科があります。

「教員は、スペシャリストかつオールラウンダーでなければならない」と最初に勤めていた学校で校長先生から言われました。授業のスペシャリストであることはもちろんですが、クラスや部活動の運営、児童・生徒とのコミュニケーション（悩み相談や長所を伸ばす声かけ、etc）、学校行事の企画・運営、地域や保護者との連携等、教員にはさまざまな仕事があります。

横浜国立大学には、幅広い見識と高い専門性を得られる環境があります。私は4年間部活動に打ち込みましたが、教育ボランティアをしたり、海外に行ったりする友人もいました。そのような多彩な仲間たちとともに、実際に小中学校の現場に入って学ぶ等、授業カリキュラムや様々な体験を通し、学生生活の中で人として大いに成長することができました。学生時代の経験が、スペシャリストかつオールラウンダーであることを求められる教員の仕事に役立っています。



神谷紘祥 教諭

高校3年生の時、あまり明確な目標を持ってないまま受験する大学を選んでいたことを思い出します。大学卒業後の職業をイメージしながら、そのために何をしたらいいのか迷っていたのだと思います。最終的には、「人と関わる仕事」がしたい。変化に富んでいる仕事が私には向いているのではないかと考えて、教職を目指して横浜国立大学を志望しました。

入学後は恵まれた環境の中で、多くの先生方、仲間と出会い、学ぶことの面白さを味わうことができました。この経験は私の中で大きな財産となっています。教員として働き始めてからさらに学びたいと考え、修士課程に入学しました。自分のフィールドでさらに学びを深められたことは、なかなか得難い経験で、学部生の時以上に学べることのありがたさを痛感しました。

卒業後、様々な立場で教育に関わらせていただいていたが、たくさんの先輩方や仲間たちと共に教育に携わり、学校で子どもと一緒に学び続けられることの幸せを感じています。子どもたちは未来で、可能性のかたまりです。学校教育には大きな力とたくさんの夢や希望があると思っています。



近藤順子 校長